

令和7年度（2025年度）第4回
八王子市社会福祉審議会 地域福祉専門分科会 議事録

日時・会場	令和8年（2026年）2月16日（月）13：00～15：00 八王子市保健所 502会議室
出席者	委員 黒岩 亮子（日本女子大学） 島崎 誠（八王子市民生委員児童委員協議会） 上村 晃一（市民委員） 石井 修一（八王子市町会自治会連合会） 齋藤 健（八王子市民活動協議会） 下島 宏文（市民委員） 西田 佳子（八王子市社会福祉協議会） 丸山 颯姫（市民委員） 山下 晋矢（八王子市医師会）
	市職員 菅野 匡彦（福祉部 部長） 小池 明子（福祉部 生活福祉担当部長） 元木 博（福祉部 福祉政策課長） 辻野 文彦（福祉部 福祉政策課主査） 白石 利和（福祉部 高齢者いきいき課長） 櫻田 ひかり（福祉部 障害者福祉課長） 小俣 英一（福祉部 生活自立支援課長） 中山 あずさ（健康医療部 健康医療政策課長） 志村 慶太（健康医療部 健康づくり推進課長） 原 清（子ども家庭部 子どものしあわせ課長）
欠席委員	室田 信一（東京都立大学）
次第	1 開会 2 議題 第4期地域福祉計画の中間見直しに向けて 3 その他 4 閉会
公開・非公開の別	公開
傍聴人の数	なし
資料	・ 次第 ・ 第4期八王子市社会福祉審議会地域福祉専門分科会委員名簿（R7.4.1時点） ・ 【資料1】 第4期地域福祉計画の中間見直しに向けて ・ 【資料1-2】（厚生労働省）重層的支援体制整備事業について ・ 【資料2】 第4期八王子市地域福祉計画中間見直しに関する意識調査 調査項目（案） ・ 【追加資料】 ここの家オンライン ・ 【追加資料】 NPO ガイドブック
会議の要旨	
元木課長 黒岩会長	【1 開会】 <元木課長より挨拶> <黒岩会長より挨拶>

<p>元木課長 辻野主査</p>	<p>【2 議題】 第4期地域福祉計画の中間見直しに向けて <【資料1】に沿って福祉政策課 元木課長、辻野主査から説明> 令和11年度までを策定した第4期の地域福祉計画の中間見直しについて 令和8年度に見直しを策定し、令和9年から令和11年で実施する。</p>
<p>島崎委員</p>	<p><質疑応答> 第3回地域福祉専門分科会の資料で包括的な支援体制の整備のための定量的な指標の設定は、8割の市町村で実施していないとのことだが、交付金の減額に関わっているのか。</p>
<p>辻野主査</p>	<p>八王子市は2割に該当している。交付金の減額について、最も大きな理由は、財務省から予算を切られた点と思われる。しかし、市町村の中でも、指標を設定すべきかなど国から示されていない部分もあり、令和8年度からの交付金はその点を含んだ加算方式に変更となった。</p>
<p>上村委員</p>	<p>多機関協働事業を委託する場合は交付金がもらえないとのこと驚いた。八王子市は初期から重層事業を実施しており、委託事業として八王子市社会福祉協議会が大きく貢献してきた。</p>
<p>西田委員 黒岩会長</p>	<p>多機関協働事業の直営化については、市に負担が多くかかると思われる。 高齢者あんしん相談センター21カ所が包括的な相談を受けることになるには、意識改革や職員の研修等が必要になると思われる。一方で、はちまるサポートが6カ所に減るということではなく、高齢者あんしん相談センター21カ所で相談を引き受け、はちまるサポート6カ所でサポートしていくという体制であれば、マイナスには取られないのではないのか。</p>
<p>島崎会長</p>	<p>民生委員の定例会議にお越しいただく高齢者あんしん相談センター職員の説明では、分野を問わない相談に意識が向いている。一方で、アウトリーチには人員と時間が必要と理解している。</p>
<p>菅野部長</p>	<p>高齢者専門分科会では、高齢者あんしん相談センターの負担軽減が課題とされている。重層事業については、地域への説明など様々な調整が必要となるため、時間をかけて調整していく想定である。資料1 P23について、0層では、はちココを相談の一部を担うほか、新人育成にも活用したく考えており、予算要求している。多機関協働事業の直営化については、こども家庭センターが前例としてある。社会福祉協議会は、福祉のプロであるため、八王子市と八王子市社会福祉協議会で人事交流等を実施し、一緒に福祉のプロを育てていきたいと考えている。</p>
<p>上村委員</p>	<p>重層事業は他部署との調整が重要になると認識しており、医療職も非常に重要になる。そのため、横串を刺せるような分野横断的な体制とするために重層事業担当の係長などを置いた方が良いと思う。</p>
<p>菅野部長</p>	<p>市では保健師が92名在籍しており、地域の健康づくりなど分野横断的な人材となるよう意識し取り組んでいる。</p>
<p>石井委員</p>	<p>市民センター祭りにおいて、ゴミ減量の視点からごみゼロ運動を実施している。市民センターを地域住民との交流の場としてぜひ活用していただきたい。</p>
<p>山下委員</p>	<p>重層のターゲットは子どもや高齢者など多岐にわたるが、一番の問題が生産年齢人口が減ること。生産年齢人口の減少にあたり、外国人労働者の増加が見込まれる。働き手の確保は深刻な課題であり、重層事業の仕組みも働き手の確保を含めて検討していただきたい。地域共生社会は、高齢者だけが対象ではないことから、現在の高齢者あんしん相談センターの名称を高齢者を取ってしまい、あんしん相談センターとし、その中にはちまるサポート部門を設けるなどしても良いの</p>

<p>上村委員 菅野部長</p>	<p>ではないか。 高齢者あんしん相談センターは、高齢者しか対応できないのか。 仕組みとしては、総合支援事業があるが、地域にいる市民の割合が高齢者が多くなっている実態がある。このことから、実際は高齢者の相談が多く、財源的にも介護保険で支えられている仕組みとなっている。</p>
<p>下島委員</p>	<p>人口構成に変化が見られないという話であったが、企業としては、介護離職などが増えるのではないかと懸念がある。生産性を伸ばすためにも介護離職や職員の高齢化などにどう対応するかが課題である。働き手はおり、企業がどのように確保していくのかを考える必要がある。 ボランティアの話もあったが、善意に任される活動になってしまうので、地域通貨などに還元し、何か対価があると裾野が広がっていくのでは。</p>
<p>斎藤委員 丸山委員</p>	<p>自発的な活動を支援していくことも重要ではないか。 はちまるサポートと高齢者あんしん相談センターが横並びになるという認識で良いのか。</p>
<p>元木課長 丸山委員 元木課長</p>	<p>そのとおりである。 困難な事例がはちまるサポートに振られているということか。 高齢者あんしん相談センターにもコーディネーション機能があるが、困難事例が、集まってしまう傾向があった。</p>
<p>丸山委員 辻野主査</p>	<p>拠点に専門性のある人が配置されることは良いことだと思う。人員不足などの話があったが、高齢者あんしん相談センターに学生が介入できるのか。 高齢者サロンやスマホ教室など学生が地域の中へ入る機会を設けていきたい。</p>
<p>辻野主査</p>	<p>【3 その他】 第4期八王子市地域福祉計画中間見直しに関する意識について <【資料2】に沿って福祉政策課 辻野主査から説明> 【4 閉会】 令和8年度の日程については、決定次第各委員へ連絡する。</p>
<p>議事録署名人</p>	<p>黒岩 亮子</p>